

「天の川」というのは、我々の住んでいる太陽系も含まれている「銀河系」の姿そのものです。太陽系は銀河系渦巻きの「腕」の一つに位置しますので、そこから銀河系そのものを「内側から」見た姿が天の川なのです。天の川には「濃さ」があります。銀河の中心の反対方向は「恒星の密度」が小さいので、天の川も薄く見えます。逆に銀河の中心方向は、恒星の密度が大きいので、天の川も濃く明るく見えます。その「銀河の中心」は「いて座」にあります。いて座は夏の星座です。空の暗い土地なら、天の川は四季を通じて見えますが、一番明るく見えるのは「夏」に間違いありません。



関東付近ではいて座は、南の地平線付近の低い位置に見えます。銀河の中心を撮影しようとするれば、地上の風景も一緒に写ります。この写真もその一つですが、間違いなく「インチキ天体写真」です。天の川は、肉眼ではこんなにはっきり見えないからです。しかし、銀河中心部がいかにかに恒星が密集しているか、そしてその手前の「暗黒星雲」の存在などを写すには、このような写真にするしかありませんでした。北軽井沢にいらっしゃったらご案内しますので、是非肉眼でご覧ください！

(2024年8月上旬)

／北軽井沢